ケース・スタディ
カナディアン・アカデミー神戸市（日本）

課題

日本は、テクノロジーがもたらす、テンポの早さ、革新的な文化や、便利な生活でよく知られています。　最もポピュラーな便利さのひとつに、全国中にある自動販売機が挙げられます。　自動販売機は市民に軽食や飲み物を簡単に購入させる一方，　それらは、国内で発生する大量のプラスチックゴに、直接に影響を与えています。

日本はリサイクルのインフラが世界でも最高レベルで整っている国の一つで、2015年のリサイクル率は83%に達します。　しかし、ペットボトル1本にかかるリサイクル費用はペットボトル1本を製造する費用よりも高く、さらに3倍ものエネルギーを必要とします。　そのエネルギーは石炭を燃料とする発電所からリサイクル施設に供給されるのですが、空気を汚染する温室効果ガスも又、大気中に放出されているのです。

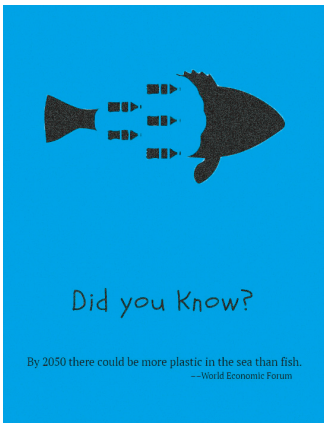
この事実からの問題点：リサイクルは、本当に将来の地球環境にとってベストな解決策なのでしょうか？

よりよいソリューション

幼稚園から高校3年生までの私立教育施設、神戸にあるカナディアン・アカデミーでは、プラスチック廃棄物に関する考え方を変えようと努力しています。この学校のエコ・クラブに所属する6名の生徒が中心となって、この活動を行っています。

この6名は、他の生徒たちにペットボトルのリサイクルを呼びかけるよりも、学内からペットボトルを使用する環境を排除することを思いついたのです。

そこでエコ・クラブのメンバーは、学内の古いファウンテインは18台のElkay®ボトルフィラーステーションとファウンテインに交換することを学校に提案しました。　学校の持続可能性を推し進める取り組みに、エコ・クラブがボトルフィラーステーションを使用することを聞いたElkayは、協力を申し出ることに決めました。　指導プログラムの一環としてElkayはエコ・クラブと提携し、学校でのカルチャー・チェンジ・キャンペーンをサポートしました。



毎月1回、Elkayのマーケティング・チームのメンバーはエコ・クラブの6名と会合を開き、自動販売機の1回だけの使用で捨てられてしまうペットボトルの代わりに、どうしたら再利用できるボトルを生徒たちに使ってもらうことができるかを話し合いました。

エコ・クラブのメンバーは、ペットボトルによる環境へのダメージを訴えたポスターを作成し、学校内に展示しました。 また、Elkayのボトルフィラーステーションに装備されているGreenTicker（ボトルカウンター）を利用して、どれだけのペットボトルが節約されたのかを毎週、集計しました。 この節約できたペットボトル数量は、学校中の掲示板やTVスクリーンで週ごとに発表されました。

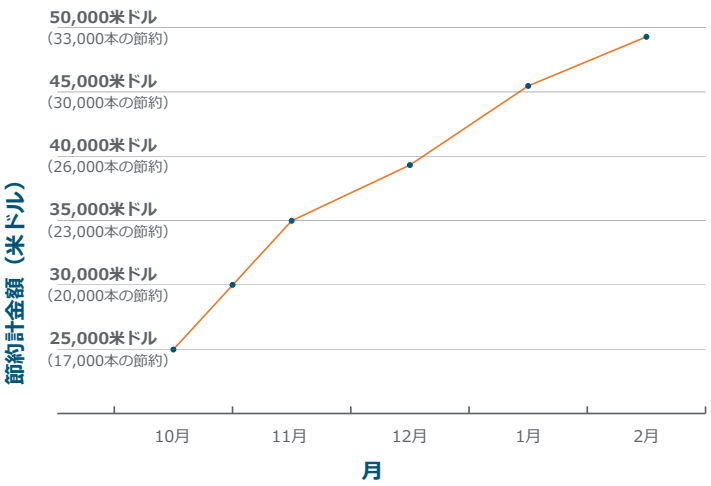
結果

ボトルフィラーステーションが学内に設置された2017年秋から2018年2月までの間、カナディアン・アカデミーでは32,000本以上のペットボトルが節約できました。同数のミネラルウォーターのペットボトルを購入した場合、5,229,809円（48,969.37米ドル）かかります。

これから春、夏に向けて熱中症対策など、使用頻度が増加することが予想されるため、今年の内に、ボトルフィラーステーションやファウンテインを設置するのにかかった費用は回収できるでしょう。　右のグラフは、生徒たちが集計したデータを基に7か月の数字を表にしました。

エコ・クラブのメンバーは130名の中等学校の生徒について調査しました。その結果、

ペットボトルの消費削減によって、節約できた総合計金額



新しいボトルフィラーステーションが設置されてから、64%の生徒がより頻繁に水飲み器を利用するようになりました。

カナディアン・アカデミー8年生のヒライ　アキさんは次のように感想を述べました。

「ボトルフィラーステーションのカウンターで、何本節約できたのか見られるのがすごくいいと思います。　環境にいい行動をしているってことを実際に自分の目で確認できるのは効果的ですよね。」

将来

生徒たちの挑戦はまだまだ続きます。 エコ・クラブでは、今年4月のEarth Weekの期間中に、ペットボトルの使用の削減を引き続き呼び掛ける大規模なキャンペーンを予定しています。 4月は日本では徐々に気候が暖かくなる時期です。気温の上昇やシーズン・スポーツが活発になるこの時期に、ボトルフィラーステーションやファウンテインの使用推進キャンペーンを行います。